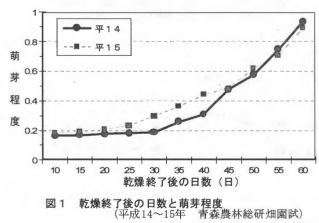
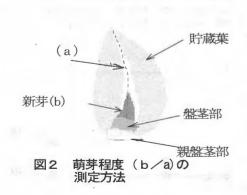
事		項	にんにくの原	周年出荷に向けた低温貯蔵及び乾熱処理	<b>埋との組合せによる萌芽抑制技術(改訂)</b>
ね	5	V	貯蔵及び乾熱 で萌芽・発析 想定して出廊	熱処理の組合せによる萌芽抑制技術に~ 艮抑制効果等が明らかとなった(第1幸	中止(10月登録失効)されたため、低温 ついて検討した結果、平成14年度の試験 限)。平成15年度には主要な販売地域を が早かったことなどにより、萌芽・発根 ける。
	指		技術区分	改訂前(平成16年度指導参考資料)	改訂後(平成 17 年度指導参考資料)
			低温貯蔵	1 7月下旬から-2℃で貯蔵 (C A貯蔵含む) すると、11 月から	1 乾燥終了直後(7月下旬)に-2 ℃で貯蔵すると、11 月から2月出
	導			4月出庫までは萌芽・発根が1か 月間抑制される。 2 留意事項	庫までは萌芽・発根が2~3週間程 度抑制される。 2 留意事項
	参			0℃貯蔵及び8月下旬入庫では 萌芽・発根は抑制されない。	・7月下旬より貯蔵開始時期が遅 れるほど萌芽・発根抑制効果は 低下する。
	考				・貯蔵前に調製すると萌芽・発根 抑制効果が低下するので、貯蔵 前には調製しない。
	内		低温貯蔵   前の乾熱	1 8月下旬から9月上旬までに 50 ℃又は48 ℃で6時間乾熱処理	1 萌芽程度 0.3 ~ 0.5、水漬けテスト3日後に 30 %以上が発根する時
	容		处理   	し、その後、-2℃で貯蔵(CA 貯蔵含む)すると 11 月から 3月 出庫まで、0℃で貯蔵すると 11 月から 2月出庫までは萌芽・発根 が 1 か月間抑制される。 2 留意事項 乾熱処理時期が遅くなると効果 が劣るだけでなく高温障害(飴色 化等)が発生する。	期 (8月中旬~9月上旬) に 50 ℃ で 6 時間乾熱処理し、その後 - 2 ℃ で貯蔵すると、10 月出庫では萌芽・発根が 2 ~ 3 週間程度、11 月及び 12 月出庫では1か月間抑制される。 2 留意事項 48 ℃で 6 時間の乾熱処理は効果が不安定である。
			低温貯蔵 後の乾熱 処理	1 7月下旬から-2℃で貯蔵した ものを 11 月~4月に出庫し、常 温で5日~7日程度放置後、48 ℃で6時間乾熱処理すると、萌芽 ・発根が1か月間抑制される。 2 8月下旬から-2℃で貯蔵し て、同様な処理をすると、12月 ~2月出庫でのみ萌芽・発根が抑 制される。	<ul> <li>1 乾燥終了直後(7月下旬~8月上旬)から-2℃で貯蔵したものを11月~1月に出庫し、48℃で6時間乾熱処理すると萌芽・発根が1か月間抑制される。</li> <li>2 3~5月出庫の乾熱処理方法は、48℃で6時間では障害が発生するため次表のとおりとする。</li> </ul>

			3 留意事項	出庫時期	処理温度 48℃ 46℃	処理時間 4時間 6~8時間	前芽・発根 抑制期間 1か月 2~3週間		
						・ 乾 上間 さな ・ 10	熱処理師 の場合に は結露隊 らに放置 い。 月出庫	には、出 注去のた 登期間を では効果	2~3週間   程度が 0.3 庫後の放置 めだけとし 設ける必要 !が劣り、2 発生する。
朝待される効果			用せず、にん 正乾燥を行う	ルにくの <b>周年出</b> 格	苛が可食	能となる	0		
別用上の注意事項	2 各処理の するので 2	の萌芽 主意が	手・発根抑制効 必要である。	め果、特に長期の			害発生	等は、年	F次により3
担 当	「青森県農林	木総合		≧推進プロジェク - 、同畑作園芸記 <sup>:</sup> 工業	_		対象均	也域県	下全域
	にんにく萌芽	<b>炸抑制</b>	技術研修会資料	斗 平成 15 年 6	月			•	

## 【根拠となった主要な試験結果】





## 表1 低温貯蔵による萌芽・発根抑制効果(出庫後約1か月後の調査)

(平成14年度 青森畑園試)

貯蔵時	条件			出庫	Ē I	時 期							
入庫日	貯蔵温度	11月出庫		12月出庫		1月出	1月出庫		2月出庫		庫	4月出	庫
	-2°C	0		0		0		0		X	a	0	
7月30日	CA−2°C	0		0		0		. 0		0		. 0	
	0℃	×a,	b	×a,	b	×a,	b	×a,	b	-	- (	_	- 3
8月28日	-2°C	×a,	b	×a,	С	×a,	b	×a,	b	×a,	b	×a,	С
	0℃	Χa,	b	Xa,	b	Χa,	b	Xa,	b	×a,	b	_	_

#### (注) 1 萌芽・発根抑制効果の表記

 $\bigcirc$ : 効果が認められ品質良い、 $\triangle$ : やや問題あり( $2\sim3$  週間では可能と思われる)、 $\times$ : 問題あり、-: 調査なし

2 問題点の表記 a: 萌芽、b:発根、c: りん片の透明化・腐敗等の被害

### 表2 低温貯蔵 (-2℃) による萌芽・発根抑制効果 (出庫後約1か月後の調査)

(平成15年度 青森農林総研畑園試)

貯	貯蔵時条件			出 庫 時 期																
入庫日	萌芽程度	調製	9月日	出庫	10月日	出庫	11月日	出庫	12月出	車	1月出	山庫	2月出	出庫	3月日	出庫	4月	出庫	5月1	出庫
乾燥終了直	0.26	無	×a,	b	×a,	b	Δb		∆b		△b		∆a,	b	×a,	b	×a,	b	×a,	b
後(7/31)		有	Δb		×a,	b	×ъ		∆b		∆b		×a,	b	×a,	b	_		_	
11日後	0. 26	無	×a,	b	×a,	b	×α,	b	△b		×a,	b								
19日後	0.35	無	Χa,	b	Χa,	b	×α,	b	×a, 1	)	_		_		_		_		_	

#### (注) 萌芽・発根抑制効果と問題点の表記は表1の注参照

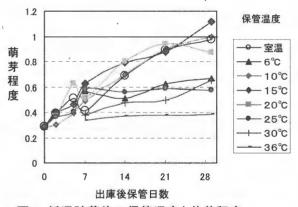


図3 低温貯蔵後の保管温度と萌芽程度 (注)1 15年7月31日入庫(-2°C貯蔵)、10月29日出庫 2 室温: 平均17.2°C(最高26.0°C、最低8.7°C)

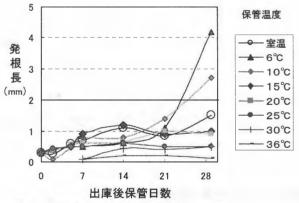


図4 低温貯蔵後の保管温度と発根長 (注)1 15年7月31日入庫(-2°C貯蔵)、10月29日出庫 2 室温: 平均17.2°C(最高26.0°C、最低8.7°C)

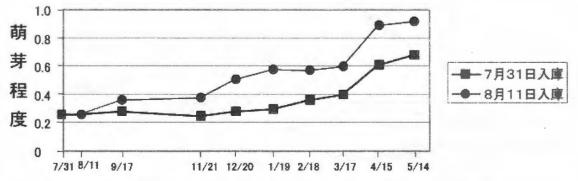


図5 -2℃貯蔵中の萌芽程度の推移 (平成15年度 青森農林総研畑園試)

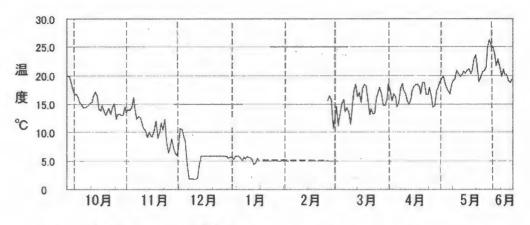


図 6 出庫後のにんにく保管温度 (平成 1 5 年度 青森農林総研畑園試) (注) 破線の期間は、約5℃の保管庫で保持

# 表3 低温貯蔵前乾熱処理による萌芽・発根抑制効果 (平成14年度 青森畑園試)

① (11/14出庫、12/17調查)

(T) (T)	14四厘、12/11	月1年)				
乾熱処理 温 度		8/28	9/4	9/11	9/18	9/25
	-2°C	0	0	×ъ	×a, b,c	×a, b,c
50℃	CA - 2℃	_	0	0	_	-
	0℃	_	0	0	*****	_
48℃	-2°C	0	0	0	0	

② (12/1)	7出庫、1/20調	查)				
乾熱処理 温 度	入庫月日 貯蔵温度	8/28	9/4	9/11	9/18	9/25
	-2°C		0	0	0	0
50℃	CA - 2°C	_	0	0	_	
	0℃	-	0	0	_	_
48℃	-2°C	0	0	0	Χa	_

③ (1/14出庫、2/21調查)

乾熱処理 温 度	入庫月日 貯蔵温度	8/28	9/4	9/11	9/18	9/25
,	-2°C	0	0	0	Xa, c	×с
50℃	CA — 2°C	_	0	0	_	_
	0℃	_	0	0	_	
48℃	-2°C	0	0	0	Χa	

④ (2/10出庫、3/19調査)

乾熱処理 温 度	入庫月日 貯蔵温度	8/28	9/4	9/11	9/18	9/25
	-2°C	0	0	0	Xa, c	Xa, c
50℃	CA — 2°C	_	0	0	_	_
	0℃	_	0	0		_
48℃	-2°C	0	0	0	Χa	

⑤ (3/12出庫、4/17調査)

乾熱処理 温 度	入庫月日 貯蔵温度	8/28	9/4	9/11	9/18	9/25
	-2°C	0	0	0	×a, c	×a, c
50℃	CA — 2°C	_	0	0	_	_
	0℃	_	Хc	Хc		_
48℃	-2°C	0	Χa	0	×a, c	

⑥ (4/9出庫、5/16調査)

乾熱処理 温 度	入庫月日 貯蔵温度	8/28	9/4	9/11	9/18	9/25
	-2°C	0	Хc	Хc	Xa, c	Xa, c
50℃	CA — 2°C		Хc	Хc	_	_
	0℃	MANUAL PROPERTY.	Хc	Хc	_	_
48℃	-2°C	Χa	Хa	Xa, c	Χa	_

<sup>(</sup>注) 萌芽・発根抑制効果と問題点の表記は表1の注参照

## 表 4 低温貯蔵前乾熱処理による萌芽・発根抑制効果(出庫後約1か月後の調査)

(平成15年度 青森農林総研畑園試)

処理月日	10/15	出庫	11/20	)出庫	12/18出庫		
	50°C	48℃	50°C	48°C	50°C	48°C	
8/11~12	×a, b	×a, b	Δb	×a, b	0	×a, b	
8/19~20	∆a	×a, b	×a, c	×a, b, c	0	Δb	
9/3~4	_ \_\da~\(\)	∆a~0	0	0	0	Δb	

<sup>(</sup>注) 萌芽・発根抑制効果と問題点の表記は表1の注参照

## 表5 平成15年産にんにくの収穫後の芽の生長と発根能力からみた乾熱処理適期

(平成15年度 青森農林総研畑園試)

平成 1 5	乾燥仕上 り後日数	萌芽程度 (芽長/	観察による変化の特徴	水漬けによる	前乾熱本試験の	萌芽抑制効果*	
年暦日	(目)	りん片 高)	既宗による変化の村城	3日後発根率	50℃	48℃	
8月1日	2	0.26	芽の色は淡緑色	0 (%)		7	
6日	7	0.26		0	100000000000000000000000000000000000000		/ 17 To To
11日	12	0.26		0	Xa, b		
12日						Xa, b	
15日			発根の兆候見え始める				
18日	19	0.33					1
19日	20				∆a		処
20日						×a, b	т
25日	26	0.35		30			理
28日	29		1	2 - 1	∆a~()**		適
29日				40		$\triangle a$ , b * *	
9月1日	32	0.44	芽の緑色濃くなる		∆a~O		期
4日						∆a~O	
10日	42	0.52					
11日	43			100			
17日	48	0.69				-	
19日	50						

<sup>(</sup>注) 1 \* 6時間・乾熱処理による10月出庫の1か月後判定結果

## 表 6 低温貯蔵後乾熱処理による萌芽・発根抑制効果(出庫後約1か月後の調査)

(平成14年度 青森畑園試)

入庫月日	貯蔵温度	乾熱処理温度	11月出庫	12月出庫	1月出庫	2月出庫	3月出庫	4月出庫
7/30	-2°C	50°C	0	0	0	×с	0	×с
	-2°C	48℃		$\circ$		0		
	-2°C	46℃						Χa
	-0℃	50°C − −		×b,c	×b	×b,c		
8/28	-2°C	50°C	×b	0	0	0	Хc	Xa, c
	-0℃	50°C	Xa, b	Χa	Xa, b	Xa, b,c		_

<sup>(</sup>注) 1 萌芽・発根抑制効果と問題点の表記は表1の注参照

<sup>2 \*\* 6</sup>時間・乾熱処理による基礎試験から

<sup>2</sup> 出庫後処理までの放置期間(前置日数) 5~7日

### 表7 低温貯蔵後乾熱処理による萌芽・発根抑制効果(出庫後1か月後の調査)

(平成15年度 青森農林総研畑園試)

処理前	理前歷 10/20出庫		11/21出庫		12/19出庫		1/22出庫		2/19出庫			
入庫 月日	前置日数	50℃ 6時間	48° 6時間		50℃ 6時間	48℃ 6時間	50℃ 6時間	48℃ 6時間	50℃ 6時間	48℃ 6時間	50℃ 6時間	48℃ 6時間
7/31	2~3日 萌芽程度	△a (0. 32)	×a,	b	(0. 27)	0-	(0. 36)	0	(0.47)	0	× c (0.41)	× c
	5~6日 萌芽程度	×a, c (0.44)	×a,	b	(0.33)	0	×c (0.52)	0	(0, 44)	0	×c (0.52)	× c
8/11	1~2日 萌芽程度	×a, b	×a,	b	(0, 44)	0	(0. 54)	0	(0.59)	0	× c (0.59)	×с

処理前	î歷		3/17出	庫			4/15出庫				5/11出庫		
入庫 月日	前置日数	48℃ 6時間	48℃ 4時間	46℃ 8時間	46℃ 6時間	48℃ 6時間	48℃ 4時間	46℃ 8時間	46℃ 6時間	48℃ 6時間	48℃ 4時間	46℃ 8時間	46℃ 6時間
7/31	1日 萌芽程度	×c (0.46)	0	∆a	Δa	×c (0.61)	×a, c	△a, b	∆a	× c (0.76)	×a, c	∆a	∆a
8/11	1日 萌芽程度	×c (0.73)	×a, b,c	-	_	×a, b,c (0.89)	×a, b,c	_	_	×a, b,c (0.94)	×a, b,c	_	Ī.

- (注) 1 ( ) 内は乾熱処理直前の萌芽程度
  - 2 萌芽・発根抑制効果と問題点の表記は表1の注参照

#### <参考>供試材料及び調査・評価方法

#### 1 供試材料

青森県上北郡天間林村産にんにくを、平成14年には7月上旬に収穫し、7月23日まで強制乾燥して供試した。平成15年には7月5日に収穫し、平成15年7月30日まで強制乾燥して供試した。

#### 2 調查方法

- (1) 日持ちを調査するため出荷後の流通から消費までの期間を1か月と想定し、萌芽・発根及びりん片に発生した諸障害を調査した。保管場所は、平成14年度に外気温に近い無加温の貯蔵庫、平成15年度は主要な販売地域である関西地域の外気温を想定した室内とした。
- (2) 調査球数は1処理当たり30~40球とし、1球につき任意の4りん片について、萌芽軸に沿って縦に切断し、萌芽・発根の状態を調べた。
- (3) 萌芽長は、りん片の生長点から頂点までの高さを1.0とし、これに対する割合で示した。
- (4) 発根長は、りん片の外に露出した最長根長を目測した(最小単位は 0.5mm、それ以上はミリ単位)。
- (5)発生した障害は、腐敗、透明化、飴色化等の重度障害と芽の萎れ、発根部陥没、部分的な褐変、発根部コルク化等の軽度障害である。

ア 腐敗:腐敗が始まったもの。(カビの発生等含む)

- イ 透明化: 貯蔵葉の透明化。切断して初めて分かる部分的なものが多いが、中には外観から判別で、 きるものもある。乾熱処理に特異な現象で軽微なものは商品価値を逸するものではないが、甚だし いものはりん片が軟化する。
- ウ 飴色化:透明化したもののうち赤みを帯びたもの。乾熱処理による高温障害。
- エ 発根部陥没:発根部が陥没したもので、時間の経過により腐敗菌の侵入口となる。
- オ 芽の萎れ:りん片内部の芽の組織の萎れ、軽微なものは商品価値に大きな障害はないが、症状が進むと淡褐色を帯び、盤茎部の透明化や発根部の陥没を伴う。
- カ 部分的な褐変:りん片貯蔵葉表面に褐色の斑点を生じたもの。
- キ 発根部コルク化:りん片発根部がコルク化したもの。

#### 3 処理による萌芽・発根抑制効果の評価方法

- (1) 1りん片でも萌芽した球は萌芽とし、萌芽球率10%未満を有効と判定した。
- (2) 2 mm 以上の発根を確認したりん片を有する球は発根とし、発根球率 10 %未満を有効と判定した。
- (3) 腐敗、透明化、飴色化等の重度障害が発生球率で 10 %以上発生した試験区は、萌芽・発根抑制効果があっても無効とした。